

堅調な推移に転じる資源国通貨

＜資源国通貨は堅調に推移＞

2016年に入り、株式市場の下落が続いたことや原油を始めとする資源価格の下落が続いたことなどから、リスク回避的な動きが活発となり、資源国通貨は軟調な推移が続いてきました。しかし、ここにきて資源国通貨の動きに変化が見え始めています。

原油価格が下げ止まり、株式市場も持ち直したことなどからリスク回避的な動きが後退し、新興国通貨も堅調な推移に転じました。特にブラジルレアル、メキシコペソ、豪ドル、カナダドルは上昇が顕著となりました。

＜過度な悲観論の後退＞

資源を巡る情勢は変化してきています。

2月には産油国4カ国の間で原油増産を凍結することが条件付きながら合意されました。その結果、先行き不透明感は依然として強いものの、原油は供給面から需給が改善していく可能性がでてきています。3月17日時点でWTI原油先物価格は底値から53.4%上昇しています。

オーストラリアの主力輸出品目である鉄鉱石価格は今年に入り上昇傾向が続いてきました。鉄鉱石価格（青島港の1トンあたりの価格）は3月17日時点で前年末から28.7%上昇しています。

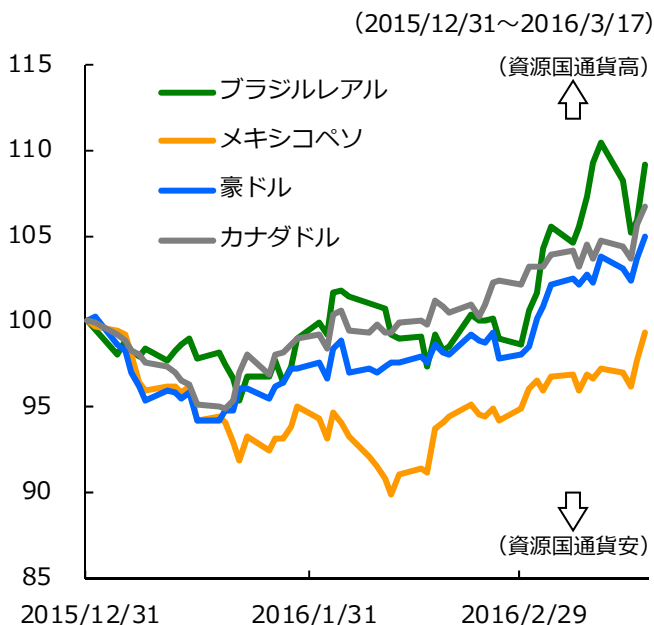
新興国を中心に世界経済が減速する中、中国経済に対する懸念も広がっていました。しかし、2016年の全人代では交通網整備などに年間2兆元程度を投じることが発表され、資源需要に対する懸念は一旦和らいだ格好です。

＜今後の見通し＞

資源を巡る先行き不透明感は強いものの、情勢は着実に改善しており、情勢の改善とともに資源国通貨も堅調な推移に転じました。

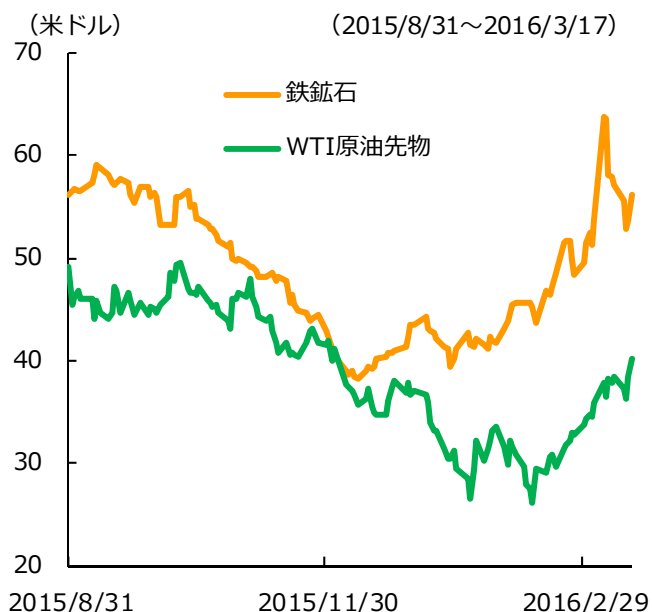
また、米国での利上げペースが緩やかにとどまる可能性が増しており、資源国通貨に対する過度な悲観論もこれまでのようには広がりづらい状況と考えられます。金融市場は落ち着きを取り戻してきており、円に比べて相対的に金利の高い新興国通貨が選好されやすい環境が整ってきていると思われます。

＜対米ドルでの為替推移＞



※ 2015年12月31日を100として指数化

＜資源価格の推移＞



※ WTI原油先物は1バレルあたりの価格

※ 鉄鉱石価格は青島港の1トンあたりの価格

出所：Bloomberg

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.24200%（但し、最低 2,700 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会